

第175号

平成21年1月10日

病 院 だ よ り

International Goodwill Hospital

新年を迎えて

村井 勝

尿もれの話

滝沢 明利

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

新年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。

昨今の医療における諸事情はまことに厳しく、まさに荒波が押し寄せています。さらに経済不況に加え政治までもが迷走空転している有り様で、多くの皆様の気持ちには閉塞感や不安感さえも生まれて来ています。私達の病院に目を転じて見ますと、各職員の奮闘にもかかわらずこの医療事情の悪化

に十分対応しきれず、地域の医療機関はもとより患者さんにご迷惑をおかけしているのではないかと憂慮致します。この厳しい現状を職員全員で打破し、良質な医療、親切な医療、そして信頼される医療の実施という病院の理念推進に努力することをあらためて年頭にお誓いいたします。

当院は国際親善病院としての開設は昭和21年ですが、その前身は横浜関内(外人居留地)にできた1863年の横浜ホスピタルあるいはその後身である1867年の横浜ゼネラルホスピタルとされております。いずれにしても長い歴史を有する本院は平成2年西が岡へ新築移転し、地域医療機関の協力の下、中核的急性期病院としての地位を確立し発展してまいりました。当初は斬新な建物と機能的にも優れた病院として皆様に親しまれてまいりましたが、ここ数年の医療環境の変化も手伝い建物の狭隘化、設備の老朽化がみとられています。このような状況の中で、掛川前院長を引き継いだ私の役割は地域中核的急性期病院としての役割向上・維持のために積極的に病院のソフト、ハード両面にわたる再整備拡充計画を充実させ、数年にわたって実現してゆくことにあります。

院長就任2年目の昨年も多く職員と面談するとともに、地域の医療機関への訪問を通じ当院の現状の把握とともに目指す方向性について検討を重ねてまいりました。ご承知のように昨年1月より多和田哲雄副院長、飯田秀夫副院長が院長を補佐する体制とともに岡崎博、宮坂敏幸両診療部長を任命し、診療部体制の充実を図りました。また4月には松田慶子看護部長を迎えました。2月には新しいオーダーリングシステムの導入を開始し、今後地域医療機関のみならず最終的には患者様にとっても有用なものとなるよう運用改善を続けます。7月からはファックスによる紹介患者様の事前予約制を開始しました。8月からは再整備計画のハード面としての第一期工事となる手術室増室・中央材料室改修を開始しました。工事は診療機能を維持しつつのため困難を極めました。旧年中にはほぼ終了しました。今後当局の検査を受けて、5室の手術室が運用可能の見込みです。さらに11月から将来の院内助産をも見すえた助産師による「助産師外来」を開設いたしました。これにより従来からの「すくすく外来」と併せて、妊娠した女性が妊娠中、出産、産後さらに育児に関して同性の助産師によるトータルケアが受けられる道が開かれます。また地域介護医療機関との連携を目指し、認定看護師を中心とした講習会などの連携プログラムを立ち上げております。このように当院が皆様に愛されるよい病院となるよう努力を重ねておりますが、その客観的評価の証のひとつとして日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定があります。当院は平成10年に神奈川県下で最初の認定を受けました。昨年は5年毎の更新年にあたり10月末に訪問審査を受けました。最終判定は未だですが、講評においては比較的高い評価を得ることができました。あらためて、これまでに地域医療機関さらには患者さんからお寄せいただきましたご支援とご指導を深く感謝申し上げます。

本年も皆様のご指導を得て私達の役割を果たし、さらに質の高い医療を推進し、信頼される病院となるよう職員一同努力致す所存ですのでよろしくお願いいたします。

病院長 村井 勝

健康懇話会

尿もれの話

今回のテーマは、尿もれ（尿失禁）です。尿もれは特に女性に多く、ある調査によると成人女性の3～4人に1人が尿もれで悩んでいるそうです。しかし、命に関わる病気ではないうえ、恥ずかしさから、相談や受診をあきらめてしまう場合が多く、がまんしている方が多いのも実情です。尿もれは、まず原因をただしく理解し、対処法を知っていただくことが重要です。そのうえで、尿もれの適切な診断と治療をうけることで、多くの尿もれがよくなります。今回のお話で、尿もれについて理解を深めていただき、より豊かな生活のお役にたてればと思います。

尿もれには大きくわけて2種類あります。尿意を感じトイレに行こうとして途中でもれてしまう切迫性尿失禁と、お腹に力がかかることで尿が漏れる腹圧性尿失禁です。切迫性尿失禁は、膀胱が不安定で過敏なために起こります。軽い場合は生活習慣の改善で対処できますが、膀胱の緊張をほぐす薬で治療も効果的です。ただしほかの病気が隠れている場合があり、一度は医師の診察をお勧めします。腹圧性尿失禁は、加齢や肥満、出産などで骨盤底筋がゆるみ、膀胱と尿道が垂れ下がり、くしゃみなどのちょっとした刺激でも尿が

漏れてしまうことで起こります。軽い場合は骨盤底を鍛える体操（骨盤底筋運動）で改善しますが、重症な場合でも簡単な手術で多くの方が治るようになってきました。TVT手術（尿道の裏にメッシュのテープを張って尿道を支える）では90%の腹圧性尿失禁が改善しますが、より安全なTOT手術が登場し、当院でも昨年より施行しています。

当日は尿もれ（尿失禁）について、詳しくお話させていただきます。

泌尿器科医長 滝沢 明利



ご案内

このテーマは

平成21年2月13日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)